

【番外編】 失敗した子供にかける言葉

「失敗は成功のもと」とか、「試行錯誤」「七転び八起き」など、失敗にまつわる言葉はいろいろありますが、現代の子育て世代や若者にはこの言葉を知らない人が意外と多いことに驚きました

相談に来る親子の話の聞いていると、親子ともに失敗のない人生を望み、子は失敗するくらいなら「挑戦しない道」を、親は失敗させないように「子供に何もやらせようとしな（失敗しそうなことは親がやる）」道を選ぶようになっているのではと心配になることがあります。それでも人生には失敗がつきものなのです。

よく「失敗から学ぶ」と言いますが、失敗したとき「バカじゃない？よく考えなさい！」と言われて立ち直れるのは、「よく物事を考えられる人」「負けん気が強い人」あるいは、「上手に支えてくれる人がいる人」で、実際は、「バカじゃない？」と責められて奮起できる人は少ないでしょう。

一方、「どうだったらよかったのかねえ〜？」というような、失敗の良し悪しではなく、責めずに共感し寄り添うセリフは、相手にものを考えさせるきっかけを作る言葉です。小学生くらいまでの小さな子供が失敗したときには、そんな言葉で、「まだ幼い子ども自身が“次からはどうすればよいのか”を考える」方向に誘いましょう。その子が思いつかなくても、親は焦らないでください。ヒントを出すのもよし、ゆっくりとつきあってあげましょう。

解決していくこのプロセスから自ら学ぶことを「失敗から学ぶ」と言います。この付き合いのことをコミュニケーションとも呼ぶのです。小学生のうち、まだゆったりと子どもとやり取りできる時期なので、どうぞ焦らずこのようなやりとりをしてあげてください。

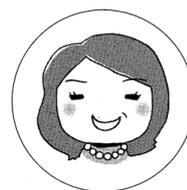
また、就労支援の場で大事だと痛切に思うことは、失敗をしないことではなく、「失敗から学ぶ」ことを知っていることです。

執筆：認定特定非営利活動法人育て上げネット 「結」相談員 森 裕子・墓田 薫

「ニート・ひきこもりの子をもつ親の会『結』」
(運営：認定特定非営利活動法人育て上げネット)

若者の「働く」と「働き続ける」を実現するために、若年無業者就労基礎訓練プログラム「ジョブトレ」など、多方面からの支援を行っている「認定特定非営利活動法人育て上げネット」の活動の一つで、親をサポートするための会。1 か月ごとの定期相談やすぐを実施できる「接し方・伝え方」ワークショップ、親同士の気軽な茶話会などを提供している。

※執筆者の肩書等は、令和2年(2020年)3月現在のものです。



森さん



墓田さん